

ハルリンドウ 分類6種に

春に全国で青紫色の花を咲かせるハルリンドウ。これまで二種類に分類されていたが、愛知教育大（刈谷市）の渡辺幹男教授（左）の研究で、少なくとも六種類に分けられることが判明した。岡崎市池金町の北山湿地など東海地方に広く分布する花を「トウカイハルリンドウ」と名付け、地元の高校生が生態調査に取り組んでいる。

（杉山果奈美）



①渡辺教授（左）に教わりながら、成長を記録する生徒たち ②北山湿地で見られるトウカイハルリンドウ。いずれも岡崎市池金町の北山湿地で

愛教大の渡辺教授研究 岡崎高生ら生態観察

ハルリンドウは、北海道から九州に生息している一年草。渡辺教授は北山湿地の花の葉がほかの地域のもので違い、内側に折れ曲がっていることから、宮崎県や石川県などの花と比較して遺伝子検査を行った。

その結果、従来確認されていた富山の高山などで見られる「タテヤマハルリンドウ」を含め、全国に少なくとも六種類の花があることを突き止めた。三月に千葉で開かれた日本植物分類学会で発表した。

渡辺教授は北山湿地をトウカイハルリンドウの代表的な生息地と位置づけ、現地で岡崎高校SSH部の生徒らと生態を観察している。既に発芽時期が冬に限らないこともつかんでおり、今後、図鑑などでこの花を紹介する機会があれば、生徒たちが集めたデータが使われる可能性がある。

三年の大植湘太さん（も）は「自然のものなので、位置が変わったり、どの個体か分からなくなったりして難しい。一つの新たな領域を開拓しているという意識を持ってやりたい」と話す。渡辺教授は「図鑑に書いてあることが全てではない。感性の鋭い高校生に見てもらい、新たな考えを見つけてもらえたら」と話した。